



2017年8月22日 第125号  
**北九州労健連ニュース**

TEL 093-871-0449 FAX 093-872-3695

〒804-0094 北九州市戸畑区天神 1-13-13 シェルム天神 1F

北九州労働者  
の健康問題連  
絡会議 発行

<http://rokenren.com/>

**北九州労健連サマースクール**  
**「人間らしい働き方、家族的責任を果たす働き方」**

7月29日(土) 14:00~17:30 男女共同参画センタームーブ 大セミナーにて、北九州労健連サマースクール「人間らしい働き方、家族的責任を果たす働き方」をテーマに、開催しました。55名の参加でした。

今回は、第3期ROUAN塾の修了式を行った後、4つの労組から職場実態と組合活動について報告した後に、上記テーマで井下弁護士に講演をしていただきました。

**永野議長あいさつ**

朝倉・東峰村に行ってきた。被災地で働いている人も過酷な状況。災害復旧のために必死で働かれていたが、休息を取る働き方重要だと思った。日本の年休消化率は先進国の中で下から2番目で消化率も60%。ヨーロッパは100%当たり前。昨年フィンランドに行ってきたが働く人たちがサマーハウスを持っている。日本は自分の有給休暇が何日あるか知らない人が53%もいる。働き方とあわせて自分の権利を知り、家族的責任を果たす働き方を考えよう。自分の時間を取り戻すことが必要です。

**ROUAN塾修了式**

11回の塾開催。25人の塾生が自ら講義の内容まで決めて取り組んだ。押しつけでないROUAN塾が出来た。1年間、労働安全衛生法や、安全衛生委員会での労働組合の果たす役割を学んできた。職場で活かしていきたい。より多くの人に伝えていきたいと感想があった。

**人間らしい働き方、家族的責任を果たす働き方**

井下弁護士より、安倍内閣がすすめる「働き方改革」の詐欺的な中身、今年1月に出された“成長戦略”「未来投資戦略2017」が掲げる「働き方改革」は「生産性の向上と新しい価値総出力の強化」～企業が世界で一番活動しやすい国へとしており、「働き方改革実現会議」のメンバーには労働者代表は1人(連合)しか入っていない。1917年設立されたILOでは政労使が同数なのと比べても異様。長時間労働規制100時間は、結局“過労死(推進)基準”、非正規雇用対策の「同一労働同一賃金」は“絵に描いた餅”。



人間らしい働き方とは、「雇用」と「賃金」そして「社会保障」が必要であり、日本は未だにILO第1号条約「8時間労働制」も批准していない。家族的責任を果たす働き方、家族と共に過ごす働き方「日曜日のパパは僕のもの」にあるように、世界的にも異常な日本の長時間労働、実労働時間(1日8時間週40時間)の定めはあっても拘束時間規制がない、国際通用語となった“カローシ”人が壊れると(うつ病など)なかなか元に戻らない。生活時間が奪われている。自分たちの生活時間を取り戻す。社会を変える大きな運動が必要だと熱心な講演がされました。

## 各団体からのリレートーク

### 使用されるが雇用されない働き

福建労北九州支部 平安氏

建設業では、国が進めてきた「社会保険未加入対策」を背景に、一人親方化される職人・労働者が増えています。事業主は労基法や安衛

法への対応や社会保険に係る一切の手続きを行わなければなりません。対応ができない事業主が、やむを得ず職人・労働者を雇用契約から請負契約での使用に切り替えています。これが現在起きている一人親方化の一因と考えます。労基法における労働者保護から外れるため、上記の社会保障や福利厚生を自らが手続きし、費用を自己負担しなければなりません。人間らしく生き働くためには、適切な賃金・単価を確保するルールと、8時間労働を基本とした長時間労働を規制するルール、雇用を守ることができるルールが必要なのです。

### 医療現場の36協定と職場の実態

健和会労組 書記長 門岡氏

職場は長時間過密労働が常態化している。人手不足を新人で補っているが、そのために仕事が増える。札幌医療センターで「遺書」を残して自殺。なぜ新

卒1年目の看護師が自死したのか。毎月、50～90時間時間外をこなしながら、重症患者が次々に入退院する過酷な病棟で、新卒看護師の能力と経験を超越する業務の遂行を求められ、うつ病を発症し、苦悩の果てに自殺した。時間外手当なし。病院側は「本人からの申請もなく未払い賃金があるとは考えていない」と。健和会労組の「始業前残業の禁止」の取り組みで、結果として離職率が下がったという成果があった。「自分の仕事」は、時間外と考えない傾向があるが、時間外労働削減、生涯働き続けられる職場づく

りを目指して頑張っていきたい。

### ブラック部活にたいする取り組み

全教北九教祖 末吉氏

公立中学校 30代の先生がソフト部顧問になった。教育経験が無くてもしなないといけない。土日も返上で部活指導に当たる。部活保

護者会では、「試合に出る選手の決め方がおかしい」「もっと上達して県大会に出場するような部活にして下さい」という要望が出される。78日連続勤務を自慢したら、女子バレー部の先生は、私は140日だよと。業務改善プログラムを4月に北九州市が出した。研修を半分にする。部活は、外部コーチにかかわる費用を倍増させる。週に1回第3水曜日は、ノー部活デーにします。このような軽減策が絵に描いた餅にならないように取り組む活動を続けていきたい。

### 地方公務員の働き方は

北九州市職労 前田氏

北九州市の2015年長時間労働の実態調査では月60～80時間1,622人、月80時間以上が899人。1999年からの10年間に、病気休職者は4倍に増加してい

ます。この間に地方公務員の定員削減が徹底され、本市は30%削減されており、人員不足が最大の要因だと考えられます。残業と健康の問題では、月に25時間以上で「生活のゆがみ」、45時間以上で「家庭のゆがみ」、55時間以上で「健康のゆがみ」、75時間以上で「人生のゆがみ」、80時間以上では「過労死・病気・退職につながる」経過をたどるとされています。長時間過重労働を改善させるための業務の改善と人員増などの対策が必要です。市職労では5月に本庁舎、6月に小倉北庁舎で18時から21時までの残業実態調査を実施しました。人間らしく働く、仕事も・家庭生活もエンジョイできる、そうした働き方を求める運動が大切です。

## アンケートでの感想・意見紹介

### 【井下弁護士講演について】

#### ●女性、20代、医療福祉

過労死で奪われる命と、戦争で奪われる命の根源には同じという話は考えさせられました。等価交換が基本であるにもかかわらず、人による労働価値は生み出したもの以下の賃金しかもらえていないことに対して、雇用される側の立場の弱さを感じました。時間と、知識と技術を搾取されているという認識を持って、労働をしていく必要があると感じました。搾取されているだけでなく、うつ病になったり自殺したり、人生を奪われるという話しは理解できました。

#### ●男性、30代、医療福祉

質問を2点させていただいてとても理解が進みました。事例や判例を含めて話して下さりとても分かりやすかったです。機会があればまたお話を聞きたいと考えています。

#### ●女性、40代、医療福祉

労働者派遣の恒常化になった背景を始め、家父長的家族モデルからなる賃金差別など、日本人の働き方の問題について基本的なことから学ぶことができた。人間らしい働き方はもちろんのこと、家族的責任を果たす働き方とはどのような働き方なのか考えさせられた。

#### ●男性、50代、公務、

生産性を向上するために、新しい価値総出の強化が政府の働き方改革との説明が分かりやすかった。解雇の金銭解決制度の導入により、企業のわがまま・ブラックな部分が正当化されていくのではないかと不安を感じた。実労働時間の定めはあっても、拘束時間規制・インターバル規制がない日本は、非常に遅れていると思った。

#### ●女性、50代、その他

時間外労働の指示・申請は難しいところもあるかと思います。別に上司は嫌がっては

いないけど、能力を問われるような気がします。自職場ではありえないという考えを捨て、見直したいと思いました。

### 【リレートークでの報告について】

#### ●男性、20代、その他、

4人の方のリレートークを聞いて、一人親方・看護師・教師・地方公務員の長時間・時間外残業を強いられて、病気休職者や過労死などの実態があることを知った。看護師の命を削って命を救っているという印象が強かった。こんな長時間労働があってはならないと思いました。



#### ●女性、40代、医療福祉

1人親方という言葉を知りました。1人で全てのことを決めなければならない大変さは、身近な人を見て人生を通じて1番過酷だと思っています。

#### ●女性、50代、医療福祉

中学の先生の働き方を聞き、大変な勤務状況に驚きました。大事な子供達を育てる先生方が、こんな生活をしているのでは、良い先生でいられるわけがないと思いました。子供たちの未来のためにも、先生方の長時間労働改善のための増員が必要であると思いました。

#### ●男性、60代、製造業

北九州市職労の庁舎出入口での残業実態アンケート調査の活動は素晴らしい。田川のあるトラック会社では、会社がトラックを労働者にレンタルして、完全出来高制の1人親方請負とし、税金の申請もトラック会社が代行している例を聞きます。

## 第2回労働安全衛生 生・中央カレッジ に参加して

7月15日～16日の2日間、第2回労働安全衛生・中央カレッジ第1課が大阪国労会館で開催されました。今回は、「職場の労働安全衛生活動を活性化しよう」をテーマに、労働安全衛生活動の基礎知識、労働安全衛生委員会の役割の学習と実践が行われました。

最初は、化学一般労働組合連合顧問の堀谷さんの「労働組合はなぜ、労安活動をしなければならないのか」の講座でした。講座の初めに話された「健康に自宅を出て、健康に自宅に帰るのが当たり前」労働安全衛生法などで使用者は労働者の安全を守る義務があるとされていますが、使用者の立場でしか労働者の安全を守る措置を講じていません等々…。堀谷さんの言葉はまさに、労働者の立場で労働者の安全を守るためにどうしたらいいのかという言葉で、労働組合が労働安全衛生活動をしなければいけない意味ではないでしょうか。

講座の中では、「現場を大事に」「8割は調査」「必ず現場に」という事も話されました。現場に足を運び、現場で内容を把握しなければ、真に何が改善すべき点なのかはわからないという事でした。また、「可視化」の事例として、パワハラがあったと訴えがあった職場で、「パワハラを受けたことがあるか」「パワハラを見たことがあるか」といったアンケートをする事と言われ、なるほど、可視化とは、その事例をはっきりさせる事だったと気づきました。

労働安全衛生委員会の役割の講義では、全国福祉保育労働組合大阪地方本部の小林書記次長が働く福祉職場での問題点を労働安全衛生委員会で改善した事例を話されました。この事例は、「自分たちの職場を守りたい、やっている事業を存続させたい」という強い危機感を持ってし

まうことになった事故が原因ではありませんが、それにより、みんなが一致団結して職場環境の改善に向かっていったこと、そのために専門研究機関と連携するなどしっかりとした改善の方向性を導き出したこと、そして何よりも、職員が必死にやってきたことが、施設利用者にとって安全な方法ではなかったことに気が付くことができ、安全な方法に改善することができたこと。この改善により、職員にも負担が少なく、利用者が笑顔で施設を利用できるようになったという内容でした。

今回のプログラムの中で、**模擬安全衛生委員会**が行われましたが、役割分担や委員会の進め方のコツなどのマニュアルを準備し、初めて模擬安全衛生委員会を経験する人でも、参加（発言）できるように、事前準備が必要だったと感じました。このロールプレイングを定着するこ



とができれば、もっと労働安全衛生の理解に深みが増すのではないだろうかと思いました。

二日目の講義、亀岡教職員組合の木下委員長が話した、**楽に働くことへのマイナスイメージ**で、「苦労しないと値打ちがない」と考えて働く人たちがいるが、人間は、「楽に働く」ために進歩してきた。さぼることと楽をすることは違う、最小限の努力で最大限の効果を生み出すのが人間の進歩だと言われた言葉がとても印象的でした。今回の労安カレッジでは、心に残る、労働安全衛生活動をするためなどに必要な様々なキーワードを得ることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

北九州市職労 前田 一樹